

NHK紅白歌合戦歌詞にみる語彙の特徴とその変遷  
大妻女大家政 田村朝子 大森正司 ○浅見 正

目的 人の生活のありようは、気候、風土などの自然的なものから、民族やその集団の大きさなど、様々な要因によって変化してきた。また、人は人とのコミュニケーションをはかるため、言葉と文字を発明した。近年は、言葉や文字を伝達する媒体も飛躍的に進歩し、国際電話等での自動翻訳も行われるようになってきた。また、近年は言葉の乱れとも思われるような現象も多くなり、世代が異なるとそのコミュニケーションに支障もみられるようである。本研究では、戦後日本の復興と共にあった、NHK紅白歌合戦歌詞を対象にし、生活の移り変わりをその語彙分析から明らかにすることを試みた。

方法 「NHK紅白歌合戦歌詞」の第一回（昭和26年）から第35回までの歌詞1番から3番までを、機械入力し、これをハピネスで処理した。また、時系列的に集計、出力し、その変遷を検討した。

結果 ①分析対象歌詞の自動切り出し語彙の種類は、4747種、使用総数は7634であった。時系列には、新しくなるほど語彙も増加した。②歌合戦が充足してから、10～15年ぐらいは「君」「夜」「人」などの出現が多くみられ、近年になると、「女」「恋」「あなた」「私」などが、高出現頻度語彙として示された。